

令和 7 年度 編入学生募集要項 入 学 案 内



WE出願エントリー期間	令和 6 年 8 月 9 日（金）～ 令和 6 年 8 月 22 日（木） （受付最終日は午後 4 時まで）
出願書類受付期間	令和 6 年 8 月 19 日（月）～ 令和 6 年 8 月 22 日（木） （受付最終日は午後 4 時必着のこと）
検 査 日	令和 6 年 9 月 2 日（月）
合 格 発 表 日 時	令和 6 年 9 月 6 日（金） 午前 10 時
入学確約書提出期限	令和 6 年 9 月 13 日（金）

独立行政法人 国立高等専門学校機構
米子工業高等専門学校
National Institute of Technology(KOSEN), Yonago College

学生課入試係

〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448

電 話 0859-24-5042

FAX 0859-24-5029

ホームページ <https://www.yonago-k.ac.jp/>

目 次

編入学生募集要項

I アドミッションポリシー	1
II 募集人員	1
III 選抜方法	
1 出願資格	1
2 出願手続	1
3 受験上特別な配慮を必要とする入学志願者の事前相談について	3
4 選抜の実施方法	3
5 合格者の発表	3
6 入学確約書の提出	3
IV 個人情報保護について	4
V WEB出願エントリー及び出願書類記入上の注意事項	5

編 入 学 案 内

1 本校概要	6
2 教育課程	8
3 コース紹介	
機械システムコース	9
電気電子コース	9
情報システムコース	9
化学・バイオコース	10
建築デザインコース	10
4 入学時に必要な経費	11
5 奨学金制度	11
6 入学料・授業料免除制度	11
7 学生寮	11
別表 教育課程表	
共通科目（一般科目）	12
共通科目（専門基礎科目）	13
専門科目	
機械システムコース	14
電気電子コース	15
情報システムコース	16
化学・バイオコース	17
建築デザインコース	18

出 願 書 類 等

出願に必要な書類は本校ウェブサイト (<https://www.yonago-k.ac.jp/a098/a100/c905/>) からダウンロードしてください。

編入学生募集要項

I アドミッションポリシー

本校の編入学者に期待される人間像は、次のとおりです。

- ①専門分野の基礎となる学力を有する人
- ②自ら創意工夫をして物事に積極的かつ継続的に取り組める人
- ③文化や自然環境に対する広い視野を持ち、周囲の人と協調しつつコミュニケーションができる人

II 募集人員

学科	コース	募集人員	編入学年
総合工学科	機械システムコース	若干名	第4学年
	化学・バイオコース	若干名	
	建築デザインコース	若干名	

III 選抜方法

1 出願資格

次のいずれかを卒業した者又は令和7年3月卒業見込の者

- (1) 工業高等学校
- (2) 高等学校の工業に関する学科、普通科及び理数科

2 出願手続

(1) WEB 出願エントリー

本校ホームページから出願サイトへアクセスし、「WEB 出願の流れについて」(p5)や本校ホームページの「WEB 出願使い方ガイド」を参考に、入学検定料 16,500 円及び手数料等を納付の上、エントリーしてください。

【検定料の免除について】

令和6年度に、災害救助法の適用を受ける災害に被災し、居住する家屋が被害を受けた場合に、申請により検定料の免除を行える場合があります。該当される方は、検定料を振込む前に学生課入試係(Tel0859-24-5042)までお問い合わせください。

WEB 出願 エントリー期間	令和6年8月9日(金) から 令和6年8月22日(木) まで (令和6年8月22日(木)は午後4時まで)
-------------------	---

(2) 出願書類受付

(1) 受付期間	令和6年8月19日(月) から 令和6年8月22日(木) まで (郵送の場合も令和6年8月22日(木)は午後4時まで)
(2) 受付時間	午前9時から午後5時まで
(3) 受付場所	米子工業高等専門学校 学生課入試係 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448

(3) 出願に必要な書類

志願者は、WEB 出願エントリー完了後、次の出願書類を本校学生課入試係へ提出してください。

出願に必要な書類は本校ホームページからダウンロードしてください。

①写真票	WEB 出願サイトマイページから印刷し、提出してください。 写真は、上半身・正面向・無帽・無背景(縦4cm×横3cm)で、出願前3か月以内に撮影したものとします。
②志願調査書	本校所定の用紙に必要事項を <u>自筆</u> で記入してください。
③調査書	在学又は出身学校所定の用紙により、学校長が作成し、厳封してください。 卒業見込みの場合、第2学年までの成績を記入してください。
④卒業証明書又は 卒業見込証明書	在学又は出身学校所定の用紙により、学校長が作成し、厳封してください。

必要書類を提出し出願が完了すると、エントリー時に記載したメールアドレスへ提出書類受領メールが届きます。令和6年8月22日(木)を過ぎても提出書類受領メールが届かない場合は、本校学生課入試係にお問い合わせください。

受験票は、令和6年8月26日(月)よりWEB出願サイトマイページから印刷可能です。また同日に、エントリー時に記載したメールアドレスへ、受験についての案内をメールにて送付します。令和6年8月26日(月)を過ぎてもメールが届かない場合や、不明な点がある場合には、本校学生課入試係にお問い合わせください。

出願上の留意事項

ア 出願にあたり、「V WEB 出願エントリー及び出願書類記入上の注意事項」(p5)を必ず確認してください。

イ 郵送での出願は、必ず「簡易書留郵便」とし、封筒の表に「出願書類在中」と朱書きしてください。

ウ 出願書類で必要事項の未記入など、不備なものは受け付けません。記載事項を訂正する場合は訂正箇所を二重線で抹消し、押印のうえ、訂正事項を記入してください。

エ 願書提出後は、志望コース及びその他の記載事項の変更を認めません。また、受理した出願書類は返還しません。

オ 出願書類の記載事項と相違の事実が判明した場合は、入学後であっても入学許可を取り消すことがあります。

カ 払込済の検定料は次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

(1) 検定料を払い込んだが、出願しなかった

(2) 検定料を誤って二重に振り込んだ

返還請求手続は、令和6年8月30日(金)までに以下の方法で行ってください。

返還請求の方法

①返還請求の理由、②氏名（ふりがな）、③現住所、④連絡先電話番号、⑤WEB エントリー申込番号、⑥返還先の口座の金融機関名、支店名、預金種別、口座番号、口座名義（フリガナ）及び口座名義人と志願者本人との続柄を明記した検定料返還請求願（様式は問わない）を作成し、次の送付先に速やかに持参、又は郵送してください。返還には、検定料返還請求願を受理した後、約2ヶ月程度の期間を要します。なお、返還に係る振込手数料は請求者の負担となります。

送付先 〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448
米子工業高等専門学校 学生課入試係

3 受験上特別な配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

障がいがある者等、受験上特別な配慮を必要とする者は、令和6年8月5日（月）までに「事前相談について」（添付の様式参照）を、本校学生課入試係へ提出し、相談してください。

なお、本校が必要と認める場合には、本校において志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談等を行います。

4 選抜の実施方法

編入学者の選抜は、志願調査書及び調査書の内容を総合して判定します。

5 合格者の発表

令和6年9月6日（金）午前10時に、合格者の受験番号を本校で掲示発表するとともに、受験者及び在籍（出身）学校長に可否の結果を文書で通知します。（電話等による可否の問い合わせには応じません。）

なお、合格発表の日から1週間、本校ホームページ（<https://www.yonago-k.ac.jp/>）にも、合格者の受験番号を掲載します。

6 入学確約書の提出

合格通知を受けた者は、入学確約書（合格通知に同封）を郵送にて提出してください。
なお、入学確約書を提出しないと、本校への入学の意思がない者として取り扱います。

提出期限 令和6年9月13日（金）（必着のこと。）
提出場所 米子工業高等専門学校 学生課入試係
〒683-8502 鳥取県米子市彦名町 4448

なお、入学確約書提出者を対象とした事前指導を令和6年9月27日（金）に予定しています。

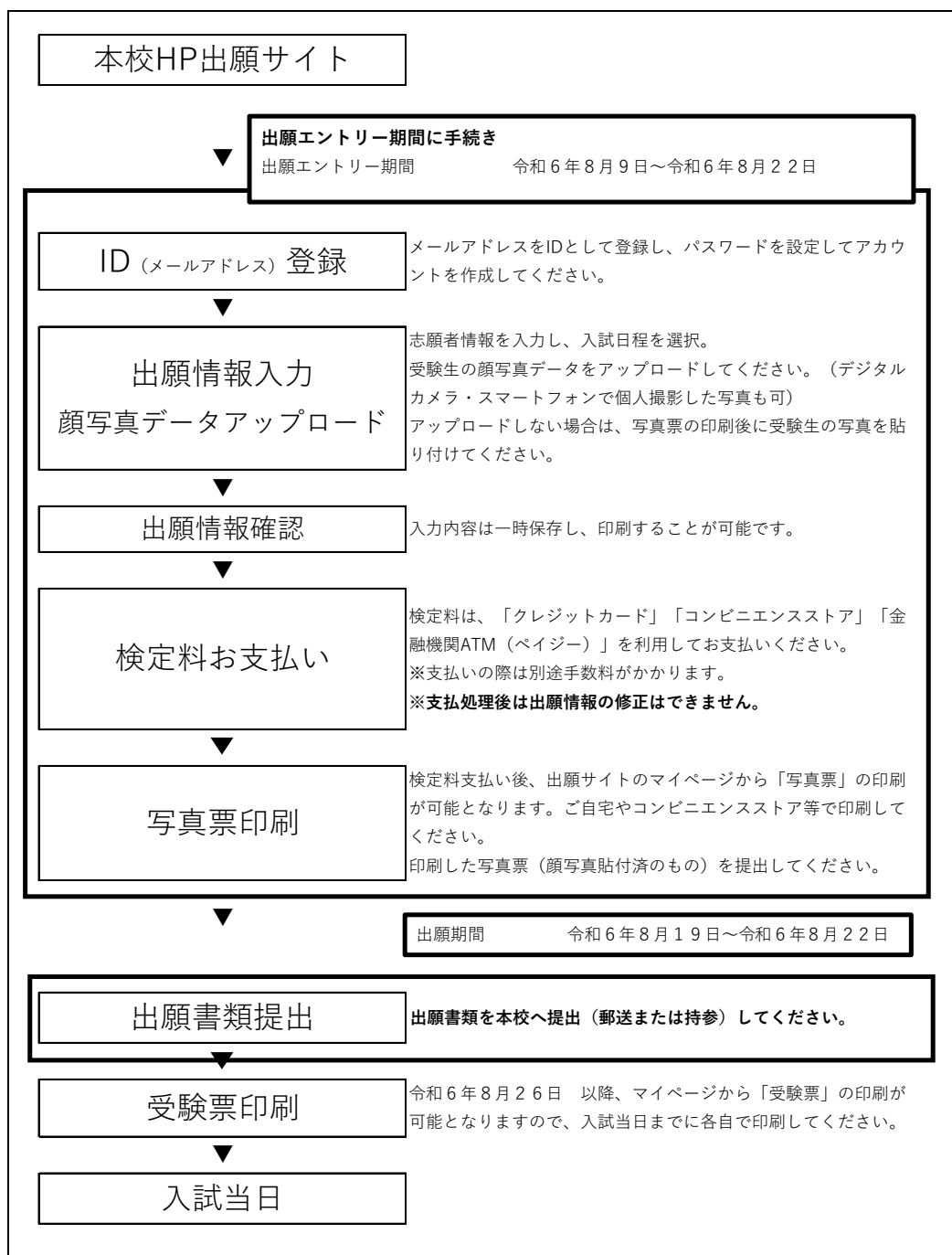
Ⅳ 個人情報保護について

入学志願者から提出された入学願書や調査書等に記載されている情報及び選抜に用いた成績・評価といった入学者選抜を通じて取得した個人情報は、入学者選抜の資料として利用するとともに、次の目的のためにも利用します。

- (1) 入学後の教育・指導
- (2) 入学料・授業料の免除申請の審査
- (3) 奨学金申請の審査
- (4) 本校及び国立高等専門学校全体の教育制度・入学者選抜制度の改善のための調査・研究

V WEB 出願エントリー及び出願書類記入上の注意事項

1 WEB 出願の流れについて



2 WEB 出願エントリー上の注意事項

- ・本校ホームページの「WEB 出願使い方ガイド」を参考にエントリーしてください。
- ・WEB エントリー後は原則出願情報の変更はできません。また、出願後の変更は認められません。
- ・アパート・マンションにお住まいの方は、建物名・部屋番号まで入力してください。
- ・本校から電話により連絡する場合がありますので、必ず連絡が取れる電話番号を入力してください。
- ・検定料支払後、出願までに、出願情報の修正が生じた場合は、学生課入試係へ連絡してください。

編入学案内

1 本校概要

本校は、昭和 39 年 4 月に設置された国立の工業高等専門学校で、5 年間の一貫教育によって豊かな教養と高度な専門技術を具備した有能な技術者を育成することを目的としています。

卒業生の大半は就職して産業界で活躍していますが、進学を希望する者には多くの国立大学に編入学する道が開かれています。進学した学生の大部分は大学院へも進み、学術研究に励んでいます。

また、平成 16 年には大学学部と同等の教育研究機能をもつ 2 年制の専攻科が設置され、学士学位の取得が可能となり、より高度な技術・研究者を養成するとともに、大学院への直接進学もできることとなりました。

(1) 本校の目的

- ・米子工業高等専門学校は、教育基本法の精神にのっとり、学校教育法に基づいて、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
- ・専攻科は、高等専門学校における教育の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授研究し、もって広く産業の発展に寄与する創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(2) 本校の教育目標

1. 教育理念

地域社会との連携と実践的な技術教育を重視し、豊かな感性と国際性を持ち、高度な専門知識を基盤に異分野の知識・技術を融合して、新たな社会的価値を創出することができる技術者を養成する。

2. 養成すべき人材像

本校では、この教育理念に基づき、次のような人材を養成することを目標にしています。

- 技術の基礎と実践的教養を身につけた人材
- 基盤となる専門分野を中心に、幅広い知識を複合させ、新たな価値を創出できる人材
- 地域や社会の特性を理解し、その発展に貢献できる人材
- 生涯にわたって意欲的に学習に取り組める人材
- 国際感覚と高い倫理観を持つ人材
- 他者と協調して創造的な活動ができる人材

(3) 学習・教育目標

本校では、上記の人材を養成するため、学生が身につけるべき能力として次の学習・教育目標を定めています。

- A 技術者としての基礎力
- B 持てる知識を使う応用力
- C 社会と自らを高める発展力
- D 地球の一員としての倫理力
- E 社会とかかわるためのコミュニケーション力

(4) コース及び専攻ごとの教育目標

・各コース共通の教養教育分野

教養教育は、専門教育を習得するための基礎的な能力を育成するとともに、社会人として必要な知識、技術を教授し、人格を形成し、教養を豊かにし、国際社会の中で活躍できる有為な人材を育てることを目標としています。

・機械システムコース

機構、構造、材料などの運動や力学に関する知識・技術をベースに、電気電子工学、情報処理、コンピュータ及び人間工学や福祉工学の要素を取り入れ、ヒューマン・フレンドリーな機械システムを設計・開発できる実践的かつ創造的な技術者の養成を目標としています。

・電気電子コース

プログラミング、情報通信、エレクトロニクス、新エネルギー、省エネ新素材といった電気に関する幅広い分野の基本技術を備え、これを効率的に利用するための AI・情報ネットワークなどの周辺技術にも精通し、「人」を中心とする持続可能な社会を構築する視点から 5G/6G や DX 革命に対応できる実践的かつ創造的な技術者の養成を目標としています。

・情報システムコース

高度情報化社会を支えるコンピュータのハードウェア・ソフトウェア、組み込みシステムなどの基本技術に加えて AI やサイバーセキュリティに関する高度な情報処理技術を備え、医療や福祉の視点も持ったスマート社会を実現する情報システムを提案・構築できる実践的かつ創造的な技術者の養成を目標としています。

・化学・バイオコース

物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生化学、化学工学などの基本知識を基盤とし、新しい材料開発や生体機能を応用する技術を身に付け、環境・食料・エネルギー・医療・福祉などの幅広い分野の問題解決に、柔軟な発想をもって取り組める実践的かつ創造的な技術者の養成を目標としています。

・建築デザインコース

従来の構造系分野とデザイン系分野からなる技術と芸術の融合に加えて情報工学・人間工学・福祉工学の視点を備え、過疎化・高齢化・少子化という地方が抱える問題や、近年頻発している自然災害などへの対応に建築・デザインの技術や知識を活用できる実践的かつ創造的な技術者の養成を目標としています。

・生産システム工学専攻

生産システム工学専攻は、本科で学んだ機械工学、電気情報工学、電子制御工学分野の基礎知識と技術を基に、他分野の幅広い知識を修得し、学際的な技術分野における問題解決能力を備えた実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・物質工学専攻

物質工学専攻は、材料工学及び生物工学に関する基礎的な知識・技術と、それらを個別の問題に対して応用・発展させることのできる力を身につけ、幅広い視野に立って総合的な問題解決ができる実践的開発型技術者の養成を目標とする。

・建築学専攻

建築学専攻は、建築・都市・地域計画、建築環境及び建築構造に関する高度な知識と技術を身につけ、幅広い視野に立って問題解決できる創造力に富んだ実践的開発型技術者を養成することを目標とする。

(5) ディプロマ・ポリシー

【本科】卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

次に示す能力（教育目標に対応した達成目標）を身につけ、学則で定める修業年限以上在籍し、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定しています。（【 】内は、対応する学習・教育目標）

- 技術に関する基礎知識や実践的教養を有し、自らの専門分野に適用できる。【A】
- 基盤となる専門分野を中心に、幅広い知識を複合させ、新たな価値の創出や問題解決ができる。【B】
- 社会の課題を見つけることができ、その解決のために汎用的技能を適用できる。【C】
- 自身のありたい姿の実現のために目標を立てて行動を継続できる。【C】
- 高い倫理観と国際感覚を有し、技術者が社会に負っている責任感を踏まえて行動できる。【D】
- 他者の意見を尊重し、自身のアイデアを伝えながら、十分なコミュニケーションをとって共同作業を進めることができる。【E】

【専攻科】修了認定方針（ディプロマ・ポリシー）

米子高専専攻科では、所定の期間在学し、所属専攻において定める分野に関して所定の単位を修得し以下のような能力を身につけた学生に対して、修了を認定します。【 】内は、主として対応する学習・教育目標。

専攻科修了者の達成目標

- ① 工学に関する様々な問題等を自ら発見することができる。【A】
- ② 発見した問題を解析し、自ら設定した行動計画の下で解決することができる。【B】
- ③ 自らの専門的知識・技術及び関連する分野の知識について、時代の進展に対応し、フォローアップすることができる。【C】
- ④ 持続可能な社会を念頭に置きながら、仕事その他の社会生活を送ることができる。【D】
- ⑤ 問題解決に向けて、チームの中で自己の意見を述べ、また他者の意見を聞きながら適切に作業を進めることができる。【E】
- ⑥ 専門的な英語の文献等を読み、理解することができる。【E】
- ⑦ 専門分野の課題について報告書等を作成し、適切な資料を用いて関係者に分かりやすく説明することができる。【E】

2 教育課程

本校の教育課程は、共通科目、専門科目のとおりです。第4学年編入学生は、第3学年までの単位を既に修得したものとして認定し、第4学年以降の科目を履修します。

【教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）】

本校では、上記の学習・教育目標を達成するため、次の方針に従って教育課程を編成しています。

- 人文・社会科学、自然科学、外国語等に関わる科目を全学年にわたって配置し、実践的教養を身につけさせる。
- コース横断型の科目を配置して、異分野の知識・技術を習得させる。

- 地域や社会への理解を促進する科目を配置して、課題発見・解決能力を養成する。
- 異文化理解や環境、技術者倫理に関する科目を配置して、国際感覚と倫理観を養成する。
- コース共通科目やチームを編成して行う実験・実習科目を配置して、コミュニケーション能力を養成する。
- コース専門科目を配置して、基盤となる専門分野の知識・技術を習得させる。

3 コース紹介

機械システムコース

機械システムコースの教育目標は、機構、構造、材料などの運動や力学に関する知識・技術をベースに、電気電子工学、情報処理、コンピュータ及び人間工学や福祉工学の要素を取り入れ、ヒューマン・フレンドリーな機械システムを設計・開発できる実践的かつ創造的な技術者の養成することです。

工学技術は現代の社会生活の多方面にわたり深く関与するようになり、それにともなって技術者が社会に果たすべき責任が強く問われています。なかでも機械工学は技術社会を支える基盤であり、機械技術者は社会に対して重大な責任を負っています。機械システムコースでは技術者を目指そうとする学生の皆さんが、機械工学を基礎として社会に貢献できる知識と技術を学び・磨くことができる教育と環境を提供します。機械システムコースの教育課程は受験生の皆さんが高等学校等で修得した知識を基に、実践的機械技術者に必要とされる専門基礎知識を体系的に学ぶことができるようになっています。また、第5学年に進級すると技術者に必要とされる倫理や、学生の皆さん各人の興味や関心に応じた応用的な専門知識を学びます。更に卒業研究を通じて実践的な問題に取り組み、それまでに学修した知識を総合して実際に活用することやデータの分析、そして自分の研究成果を他者に文書・口頭発表など様々な形式で効果的に伝える技法を修得します。

電気電子コース

電気電子コースでは「コンピュータ・情報・通信」から「電力・エネルギー技術」まで、電気と情報にかかわる分野をより高度に学習できます。そして、電気磁気学や電気回路の基本的な教科をベースとし、コンピュータ・シミュレーションなどの情報技術を活用することで現在の技術者に必要とされている素養も身につけることができます。

高学年においては、コンピュータ工学などの専門共通教科に加え「電力エネルギー・パワーエレクトロニクス」や「電子回路・ソフトウェア・情報通信」分野の選択教科を学べます。科目はコース制ではなく、自分の適性や進路希望に合わせた選択ができます。

特に、卒業研究では「次世代電気自動車」や「スマートフォン／クラウドシステム」「スマートグリッド」など新技術の開発や、「超伝導新素材」「ナノテクノロジー」などの最先端の研究も行っています。

卒業後の就職先は電気・電子・情報・通信・重工業・運輸と非常に多岐にわたっており、不況時でも大変堅調です。これらはあらゆる産業で電気が必要とされていることの証明です。また、本校の専攻科をはじめ、国立大学の様々な学科に進学することができます。

情報システムコース

情報システムコースの教育課程は、教育目標を達成するために、基礎科目から応用科目までを系統的に学べるように設定されています。低学年では各分野の基礎科目を開設し、高学年では各分野の応用として計算機工学、ソフトウェア工学、人工知能、電子デバイス、マイコン制御、ロボット制御工学、機械運動学等を開設しています。5年生では各分野を更に深く学べるように、コンピュータネットワーク、電子物性等の専門選択科目を開設しています。また、各学年では各分野に関連した実験・実習を行うことにより実践力を養えるように工夫するとともに、卒業研究では実践的な課題への取り組みを通して創造性を伸ばすことに力を注いでいます。

また、本コースでは、コンピュータを中心にした教育環境の充実を図るために、コース専用のコンピュータルームを設けて、演習や実験において電子回路系・機械系 CAD、科学技術計算ソフトウェア等の利用やマイコン・プログラミング等を通して最先端の技術を学ぶことができるようにしています。また、情報処理教育にも力を注いでおり、毎年、情報処理技術者試験など資格試験に合格者を出しています。また、高専の特徴である「ものづくり力」を育てるために、高専ロボコンや高専プロコンに積極的に参加するとともに、低学年から教員の指導のもとに研究を開始できる機会を設けています。

このような教育内容は進路にも生かされています。就職先は電子・情報・機械等の幅広い分野にわたり、就職希望者（約 70%）はほとんどが希望する企業への合格を果たし、進学希望者（約 30%）も国公立大学や高専の専攻科に進み、さらにそこから大学院へと進学しています。

化学・バイオコース

化学・バイオコースでは、物理化学、無機化学、有機化学、分析化学、生化学、化学工学などの基本知識を基盤とし、新しい材料開発や生体機能を応用する技術を身に付け、環境・食料・エネルギー・医療・福祉などの幅広い分野の問題解決に、柔軟な発想をもって取り組める実践的かつ創造的な技術者の養成を目標として教育課程を編成しています。目標とする技術者を養成するため、応用化学に必要な科目系統を網羅するとともに、全学年に実験・実習科目を適宜配置しています。また、一部に「電気・機械実習」や「情報工学」など、融合・複合領域の科目を配置しているほか、4・5 学年において「材料系」と「バイオ系」のより専門性の高い科目を配置した編成としています。そして最終学年である 5 学年には、それまでに学んだ全ての知識・技術の総まとめ科目として、「卒業研究」を配置しています。

化学・バイオコースは基礎教育を重視しているため、様々な分野への就職や進学を選択できることが特徴です。半数程度の卒業生が国公立大学の工学部、理学部、農学部に進学するほか、経済学、法文学分野への進学実績があります。また、本校専攻科 物質工学専攻への進学もあります。

建築デザインコース

建築デザインコースでは、建築を人間が社会生活を営む空間を創造する行為ととらえ、芸術と技術の融合教育を目指しています。具体的には、社会環境及び建築技術の革新に合わせた知識・技術を習得し、建築の企画、設計、生産に従事する創造的な実践的技術者の養成を目標としており、カリキュラムは力学や材料学等の理系の科目だけではなく、計画、歴史、デザイン等の文系科目を含む幅広い分野の専門科目について学修する構成としています。また、設計・実習科目においては現在活躍中の建築家を中心に多数の非常勤講師を迎え実践的な教育を行うとともに、校外の設計競技やコンテストへの参加を積極的に取り入れた創造的な教育を行っています。

以上のような包括的なカリキュラムを修めることで卒業後の進路は就職・進学ともに幅広い選択が可能であり、就職先としては、建築関連の企画・設計・生産・維持管理を行う企業や建築行政を行う官公庁を、また、進学先としては、本校の専攻科（建築学専攻）や国公立大学の建築系学科への 3 年次編入を挙げることができます。最近卒業生の 3～4 割が進学しています。なお、所定の単位を修得して卒業すると、ただちに一級・二級建築士の受験資格が得られ、合格後一級建築士については 4 年の実務経験の後に、二級建築士についてはすぐに登録できます。

4 入学時に必要な経費

項 目	金 額	備 考
入 学 料	84,600 円	入学手続き時に納付
授 業 料	前期分 117,300 円	年額 234,600 円
諸 費 用	95,000 円程度	教科書代、体操服代等

(1)授業料等は予定額であり、入学手続書類を送付する際に確定額を通知します。

(2)在学中に授業料の改定を行った場合には、改定時から新授業料を適用することとなります。

5 奨学金制度

経済的理由により修学が困難な者については、日本学生支援機構等の奨学金制度があります。
詳しくは学生課学生係（Tel0859 - 24 - 5023）へお尋ねください。

6 入学料・授業料免除制度

経済的理由により入学料・授業料の納付が困難な者については、免除制度があります。
詳しくは学生課学生係（Tel0859 - 24 - 5023）へお尋ねください。

7 学生寮

学生寮がありますが、老朽化に伴う寮改修計画のため、収容定員通りの受入れが困難な状況にあります。
4年次編入生については、特別な事情がない限り、入寮を許可しておりません。
詳しくは学生課寮務係（Tel0859 - 24 - 5024）へお尋ねください。

別表

総合工学科 教育課程表

科目 区分	授業科目	単位数			学修 単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考	
		必修	選択	自由			1年	2年	3年	4年	5年		
共通科目（一般科目）	人文・社会科学系科目	言 語 文 化	2			講義	2						
		現 代 文 I	2			講義	2						
		現 代 文 II	2			講義		2					
		現 代 文 III	2			講義			2				留学生は「現代文Ⅲ」または「日本語教育Ⅰ」のうち、いずれかを修得する
		現 代 社 会	2			講義		2					
		地 理	2			講義			2				留学生は「地理」または「日本事情」のうち、いずれかを修得する
		歴 史 I	2			講義	2						
		歴 史 II	2			講義		2					
		実 用 日 本 語	2			○ 講義				2			前期2限または後期2限開講（学級によって異なる）
		文 学 I		2		○ 講義				2		前期2限開講	前後期でそれぞれ並列開講 2科目4単位を選択する
		文 学 II		2		○ 講義				2		前期2限開講	
		文 学 III		2		○ 講義				2		後期2限開講	
		文 学 IV		2		○ 講義				2		後期2限開講	
		国 際 社 会 論 I		2		○ 講義				2		前期2限開講	留学生は「日本語教育Ⅱ・Ⅲ」を選択することができる
		社 会 思 想 論 I		2		○ 講義				2		前期2限開講	
		経 営 学 概 論 I		2		○ 講義				2		前期2限開講	
		国 際 社 会 論 II		2		○ 講義				2		後期2限開講	
		社 会 思 想 論 II		2		○ 講義				2		後期2限開講	
		経 営 学 概 論 II		2		○ 講義				2		後期2限開講	
	自然科学系科目	基 礎 数 学 A	4			講義	4						
		基 礎 数 学 B	2			講義	2						
		微 分 積 分 I	4			講義		4					
		線 形 代 数 A	2			講義		2					
		微 分 積 分 II A		2		講義			2				卒業時まで2単位以上を修得する
		微 分 積 分 II B		1		講義			1			後期2限開講	
		線 形 代 数 B		1		講義			1			前期2限開講	
		数 学 特 論		2		○ 講義				2		前期2限開講	
		物 理 I	2			講義	2						
		物 理 II	3			講義		3					
		化 学 I	3			講義	3						
	外国語系科目	化 学 II	2			講義		2					
		英 語 総 合 I	3			講義	3						
		英 語 総 合 II	3			講義		3					
		英 語 総 合 III	3			講義			3				
		英 語 表 現 I	2			講義	2						
		英 語 表 現 II	2			講義		2					
		英 語 表 現 III	2			講義			2				
		英 語 総 合 演 習	2			演習				2			
		実 践 英 語		2		○ 講義				2		後期2限開講	
		実 用 工 業 英 語		2		○ 講義					2	前期2限開講	並列開講 1科目2単位を選択する
		英 米 文 学		2		○ 講義					2	前期2限開講	
		英 語 会 話		2		○ 講義					2	前期2限開講	
		英 語 演 習		2		○ 演習					2	前期2限開講	
	保健体育系科目	ダンス & アダブテッドスポーツ	1			実技	1					前期2限開講	
		健康・スポーツ科学Ⅰ	2			実技	2						
		健康・スポーツ科学Ⅱ	2			実技		2					
		健康・スポーツ科学Ⅲ	2			実技			2				
		健康・スポーツ科学Ⅳ		2		実技				2			
	芸術系科目	音 楽 I	1			実技	1					前期2限または後期2限開講（学級によって異なる）	
		音 楽 II	1			実技			1			前期2限または後期2限開講（学級によって異なる）	
	情報系科目	情 報 リ テ ラ シ	1			講義	1					前期2限開講	
	留学生科目	日 本 事 情		2		講義			2				留学生のみ選択可
		日 本 語 教 育 I		2		講義			2				
		日 本 語 教 育 II		2		○ 講義				2		前期2限開講	
		日 本 語 教 育 III		2		○ 講義				2		後期2限開講	

科目 区分	授業科目	単位数			学修 単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考
		必修	選択	自由			1年	2年	3年	4年	5年	
共通科目（専門基礎科目）	専門基礎科目	工 学 基 礎	1			講義	1					前期2限開講
		工 学 基 礎 演 習	1			演習	1					後期2限開講
		工 学 基 礎 実 験 I	3			実験	3					
		P B L I	1			演習		1				前期2限開講
		P B L II	1			演習				1		前期2限開講
		技 術 史 ・ 科 学 史	1			講義		1				前期2限開講
		空間認識トレーニング	1			演習		1				前期2限開講
		地 域 学	1			実習		1				
		応 用 物 理 I	2			講義			2(0)	(2)		開講学年はコースで異なる
		起 業 家 育 成 コ ー ス		2		講義	2					単位認定は2単位を上限とする
	数理・データサイエンス 関連科目	情 報 基 礎 I	1			演習	1					後期2限開講
		情 報 基 礎 II	1			演習		1				前期2限開講
		数理・データサイエンス基礎	1			演習	1					後期2限開講
	医工学・ヒューマン デザイン関連科目	フロンティア工学セミナー	1		○	講義				1		集中
		生 体 工 学 基 礎	1		○	講義				1		後期1限開講
		校 外 実 習		1		実習				1		
		環 境 科 学	2		○	講義					2	前期2限開講
		技 術 者 倫 理	2		○	講義					2	後期2限開講
		医 用 機 械 工 学		2	○	講義					2	
		医 用 電 子 工 学		2	○	講義					2	前期2限並列開講
		セ ン サ 計 測		2	○	講義					2	
		衛 生 管 理 基 礎		2	○	講義					2	
		医 療 福 祉 空 間 デ ザ イ ン		2	○	講義					2	卒業時まで1科目2単位を修得する

科目 区分	授業科目	単位数			学修 単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考
		必修	選択	自由			1年	2年	3年	4年	5年	
専門科目（機械システムコース）	実験・実習 科目	工 学 基 礎 実 験 II	2			実験		2				後期4限開講
		機 械 工 学 実 験 実 習 I	3			実験			3			
		機 械 工 学 実 験 実 習 II	3			実験				3		
		機 械 工 学 実 験 実 習 III	3			実験					3	
		卒 業 研 究	8			その他					8	
	製図科目	機 械 基 礎 製 図 I	2			演習		2				後期4限開講
		機 械 基 礎 製 図 II	2			演習			2			
		機 械 設 計 製 図 I	3			演習				3		
		機 械 設 計 製 図 II	3			演習					3	
	工学基礎科目	機 械 工 学 セ ミ ナ ー	1			講義			1			
		情 報 処 理	1			演習			1			
		基 礎 電 気 電 子 工 学	1			講義			1			後期2限開講
		工 業 英 語		1	○	講義					1	前期1限開講
		応 用 数 学 I		2		講義				2		
	数理・データサイエンス関連科目	応 用 物 理 II		2		講義				2		卒業時まで1科目2単位以上を修得する
		応 用 数 学 II		2		講義				2		
	機械材料力学科目	材 料 力 学 I	2			講義			2			
		材 料 力 学 II		2		講義				2		
		機 械 材 料 学 I	2			講義			2			
		機 械 材 料 学 II		1		講義				1		後期2限開講
		機 械 工 学 演 習 II		1	○	演習					1	前期1限開講
	機械工作科目	機 械 工 作 法 I	1			講義			1			前期2限開講
		機 械 工 作 法 II		1		講義				1		後期2限開講
	設計要素・シミュレーション科目	機 構 学	2			講義			2			
		機 械 設 計 法		2		講義				2		
	流体工学科目	水 力 学	2			講義				2		
		流 体 力 学		2	○	講義					2	前期2限、後期1限開講
	熱工学科目	工 業 熱 力 学	2			講義				2		
		熱 工 学		2	○	講義					2	前期2限、後期1限開講
	機械力学・制御科目	工 業 力 学 I	1			講義		1				後期2限開講
		工 業 力 学 II	1			講義			1			前期2限開講
		機 械 振 動 学	2		○	講義				2		後期2限開講
		機 械 動 力 学		2	○	講義					2	前期2限開講
		計 測 工 学		2	○	講義					2	前期2限開講
		制 御 工 学		2	○	講義					2	前期2限開講
		機 械 工 学 演 習 I		1		演習				1		
	システム・機能機械科目	メ カ ト ロ ニ ク ス		1		講義				1		前期2限開講
		ア ク チ ュ エ ー タ 工 学		1		講義					1	前期2限開講

科目 区分	授業科目	単位数			学修 単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考
		必修	選択	自由			1年	2年	3年	4年	5年	
専門科目（電気電子コース）	実験・実習 科目	工 学 基 礎 実 験 II	2			実験		2				後期4限開講
		電 気 電 子 基 礎 実 験	3			実験			3			
		電 気 電 子 応 用 実 験 I	3			実験				3		
		電 気 電 子 応 用 実 験 II	3			実験					3	
		卒 業 研 究	8			その他					8	
	工学基 礎科目	応 用 数 学 I		2		講義				2		
	数理・データ サイエンス 関連科目	応 用 物 理 II		2		講義				2		卒業時まで1科目2単位 以上を修得する
		応 用 数 学 II		2		講義				2		
	電気電子工学基礎科目	電気電子プログラミングⅠ	1			演習		1				後期2限開講
		電気電子プログラミングⅡ	2			演習			2			
		電 気 回 路 I	1			講義		1				後期2限開講
		電 気 回 路 II	2			講義			2			
		電 気 回 路 III		2		○ 講義				2		前期2限開講
		電 気 磁 気 学 I	1			講義		1				後期2限開講
		電 気 磁 気 学 II	2			講義			2			
		電 気 計 測	1			講義			1			前期2限開講
		電 磁 波 工 学		2		○ 講義				2		後期2限開講
		電 気 機 器 I	2			講義			2			
		電 子 デ バ イ ス I	2			講義			2			
		デ ィ ジ タ ル 回 路	2			講義			2			
		電 子 回 路 I		2		○ 講義				2		前期2限開講
		信 号 処 理		2		○ 講義					2	前期2限開講
		電 気 電 子 工 学 演 習	2			演習				2		
	電気エネルギー システム 工学科目	電 気 機 器 II		2		○ 講義				2		前期2限開講
		制 御 工 学		2		○ 講義					2	後期2限開講
		電 気 法 規		1		○ 講義				1		※1前期1限開講 (いずれか1科目を選択する)
		電 気 機 器 設 計		2		講義					2	※2 (いずれか1科目を選択する)
		パワーエレクトロニクス		2		○ 講義					2	前期2限開講
		電力エネルギー変換工学		2		○ 講義				2		後期2限開講
		高 電 圧 工 学		2		○ 講義					2	後期2限開講
	知的通信 ネットワーク 工学科目	電 気 材 料		2		○ 講義					2	前期2限開講
		電 子 デ バ イ ス II		2		○ 講義				2		前期2限開講
		電 子 回 路 II		2		○ 講義					2	前期2限開講
		電 子 回 路 設 計		2		講義					2	※2 (いずれか1科目を選択する)
		コ ン プ ュ ー タ 工 学		2		○ 講義				2		前期2限開講
		ネットワークとデータ計測		2		○ 講義				2		後期2限開講
		シ ス テ ム 工 学		2		○ 講義					2	後期2限開講
		情 報 通 信 法 規		1		○ 講義				1		※1前期1限開講 (いずれか1科目を選択する)
		通 信 工 学		2		○ 講義					2	前期2限開講

科目 区分	授業科目	単位数			学修 単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考
		必修	選択	自由			1年	2年	3年	4年	5年	
専門科目（情報システムコース）	実験・実習 科目	工 学 基 礎 実 験 II	2			実験		2				後期4限開講
		情報システム実験実習Ⅰ	3			実験			3			
		情報システム実験実習Ⅱ	3			実験				3		
		情報システム実験実習Ⅲ	3			実験					3	
		卒 業 研 究	8			その他					8	
	基礎学 目 関連科目	応 用 数 学 I		2		講義				2		
		応 用 物 理 II		2		講義				2		卒業時まで1科目2単位以上を修得する
		応 用 数 学 II		2		講義				2		
	情報システム基礎科目	情報システムプログラミングⅠ	1			演習		1				後期2限開講
		情報システムプログラミングⅡ	2			演習			2			
		離 散 数 学	2			講義			2			
		デ ィ ジ タ ル 回 路 I	1			講義		1				後期2限開講
		デ ィ ジ タ ル 回 路 II	1			講義			1			前期2限開講
		コンピュータアーキテクチャⅠ	1			講義			1			後期2限開講
		電 磁 気 学 I	1			講義		1				後期2限開講
		電 子 計 測	2			講義			2			
		電 子 回 路	2			講義			2			
		電 気 回 路 基 礎 I	2			講義			2			
		電 気 ・ 電 子 回 路 演 習	1			演習			1			前期2限開講
	情報工学科目	信 号 処 理	2		○	講義				2		後期2限開講
		インターフェイス回路	2		○	講義				2		前期2限開講
		コンピュータアーキテクチャⅡ	2		○	講義				2		後期2限開講
		アルゴリズムとデータ構造	2			講義				2		
		ソフトウェア工学	2		○	講義					2	前期2限開講
		機 械 学 習	2		○	講義					2	後期2限開講
		オペレーティングシステム	2		○	講義					2	後期2限開講
		シミュレーション工学	2		○	講義				2		後期2限開講
		人 工 知 能	2		○	講義					2	前期2限開講
		コンピュータネットワーク	2		○	講義					2	前期2限開講
	電気電子工学 科目	電 磁 気 学 II	2			講義				2		
		電 気 回 路 基 礎 II	2		○	講義				2		前期2限開講
		電 子 制 御 回 路	2			講義				2		
		電 子 デ バ イ ス	2		○	講義				2		後期2限開講
		電 子 制 御 設 計	2		○	講義					2	前期2限開講
	機械工学 科目	マ イ コ ン 制 御	2		○	講義					2	後期2限開講
		材 料 力 学 基 礎	2			講義				2		
		ロ ボ ッ ト 機 構 学	2		○	講義				2		前期2限開講
		制 御 工 学	2		○	講義					2	前期2限開講
		ロ ボ ッ ト 制 御 工 学	2		○	講義					2	後期2限開講

科目 区分	授業科目	単位数			学修 単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考
		必修	選択	自由			1年	2年	3年	4年	5年	
専門科目（化学・バイオコース）	実験・実習科目	化学・バイオ基礎実験Ⅰ	2			実験		2				後期4限開講
		化学・バイオ基礎実験Ⅱ	1			実験		1				後期2限開講
		化学・バイオ基礎実験Ⅲ	3			実験			3			
		化学・バイオ基礎実験Ⅳ	3			実験			3			
		化学・バイオ実験Ⅰ	3			実験				3		
		化学・バイオ実験Ⅱ	3			実験				3		
		電気・機械実習		2		実習				2		
		化学・バイオ実験Ⅲ	4			実験					4	
	工学基礎 科目	卒業研究	8			その他					8	
		化学・バイオ基礎演習	1			演習			1			後期2限開講
		環境科学基礎	1			講義			1			前期2限開講
		情報科学	1			実習			1			後期2限開講
		情報工学		2		講義					2	後期2限開講
	数理・データ サイエンス 関連科目	工業数学Ⅰ		2		講義				2		後期2限開講
		応用物理Ⅱ		2		講義				2		卒業時まで1 科目2単位以上 を修得する
		工業数学Ⅱ		2		講義					2	前期2限開講
	応用化学科目	物理化学基礎	1			講義			1			後期2限開講
		物理化学Ⅰ		2		講義				2		前期2限開講
		物理化学Ⅱ		2		講義				2		後期2限開講
		無機化学基礎	1			講義			1			後期2限開講
		無機化学Ⅰ		2		講義				2		前期2限開講
		無機化学Ⅱ		2		講義				2		後期2限開講
		有機化学基礎	1			講義			1			前期2限開講
		有機化学Ⅰ		2		講義				2		前期2限開講
		有機化学Ⅱ		2		講義				2		後期2限開講
		分析化学基礎	1			講義		1				後期2限開講
		分析化学Ⅰ		2		講義				2		前期2限開講
		分析化学Ⅱ		2		講義					2	前期2限開講
		生化学基礎	1			講義			1			前期2限開講
		生化学Ⅰ		2		講義				2		前期2限開講
		生化学Ⅱ		2		講義				2		後期2限開講
		生化学Ⅲ		2		講義					2	前期2限開講
		化学工学基礎	1			講義			1			前期2限開講
		化学工学Ⅰ		2		講義				2		後期2限開講
		化学工学Ⅱ		2		講義					2	後期2限開講
		生命生物学	1			講義		1				後期2限開講
		微生物学基礎	1			講義			1			前期2限開講
		生化学Ⅳ		2		講義					2	前期1限、後期1限開講
		高分子化学基礎	1			講義			1			後期2限開講
		高分子化学		2		講義					2	前期2限開講
		有機・無機材料		2		講義					2	前期1限、後期1限開講

科目 区分	授業科目	単位数			学修 単位	形態 種別	学 年 別 配 当					備 考
		必修	選択	自由			1年	2年	3年	4年	5年	
専門科目（建築デザインコース）	実験・実習科目	建築設計製図Ⅰ	2			実習		2				後期4限開講
		建築設計製図Ⅱ	6			実習			6			
		建築設計製図Ⅲ	6			実習				6		
		建築設計製図Ⅳ		2		実習					2	前期4限開講
		建築デザイン基礎	1			実習		1				後期2限開講
		建築デザイン基礎演習	2			演習			2			
		建築CAD・CG		2		演習				2		
		創造実験・演習	2			実験					2	
		建築ゼミナール	2			演習				2		
		卒業研究	8			その他					8	
	理工学 目基	建築キャリアデザイン			1	講義				1		自由選択
	数 理・ デ ザ イ ン 工 学 目 基	建築応用数学	2			講義				2		
	建築構造系科目	建築一般構造	2			講義		2				後期4限開講
		建築構造力学Ⅰ	2			講義			2			
		建築構造力学Ⅱ	2			講義			2			
		建築構造力学Ⅲ		2	○	講義				2		前期2限開講 卒業時まで1科目 2単位以上を修得す る
		建築構造力学Ⅳ		2	○	講義					2	前期2限開講 卒業時まで1科目 2単位以上を修得す る
		各種建築構造Ⅰ		2	○	講義					2	前期2限開講 卒業時まで1科目 2単位以上を修得す る
		各種建築構造Ⅱ		2	○	講義					2	後期2限開講 卒業時まで1科目 2単位以上を修得す る
		建築構造計画		2	○	講義					2	後期2限開講
		建築材料	2		○	講義				2		前期2限開講
		建築生産	2		○	講義				2		後期2限開講
	建築環境 系科目	建築環境Ⅰ	2			講義			2			
		建築環境Ⅱ		2	○	講義				2		前期2限開講
		建築設備	2		○	講義				2		後期2限開講
	建築計画系科目	建築計画Ⅰ	2			講義			2			
		建築史Ⅰ	2			講義			2			
		住環境計画	2		○	講義				2		前期2限開講
		建築計画Ⅱ		2	○	講義				2		前期2限開講 卒業時まで1科目 2単位以上を修得す る
		建築史Ⅱ		2	○	講義					2	前期2限開講 卒業時まで1科目 2単位以上を修得す る
		建築意匠論		2	○	講義					2	後期2限開講
		建築法規	2		○	講義				2		後期2限開講
		都市計画		2	○	講義					2	後期2限開講

※1 表中の「応用物理Ⅰ」及びそれぞれの計欄について、（ ）は建築デザインコースの単位数を示す。

※2 表中の「建築キャリアデザイン」の修得単位は、進級及び卒業要件の単位数に含めることができない。

※3 学修単位欄に「○」を記してある科目は学修単位を示し、記してない科目は履修単位を示す。

履修単位：1単位の授業科目を30単位時間（1単位時間は、標準50分）の履修とする単位。

学修単位：当該授業及び授業時間外の学修を含め、1単位の授業科目を45時間の学修とする単位。